



週刊

# こんにちは日本共産党です 八千代市議団ニュース

堀口 明子 ☎(752)0453 植田 進 ☎(487)9754  
いはら 忠 ☎(488)7207

市議団ホームページ <http://jcp-yachiyo.jp/>  
共産党控室メール [kyousan@city.yachiyo.chiba.jp](mailto:kyousan@city.yachiyo.chiba.jp)

第246号

2015年12月14日

発行

日本共産党  
八千代市議会議員団

八千代市大和田新田  
312-5

## 他市の先進事例にならって自校給食校の推進を

日本共産党は、以前より学校給食は自校給食校へと主張してきました。その背景には、子どもの食育推進と地元産食材を取り入れることで地域農業の活性化、さらに災害時の避難場所となっている学校に給食室があることで、避難時の炊き出し機能としての役割を果たすことが期待できます。

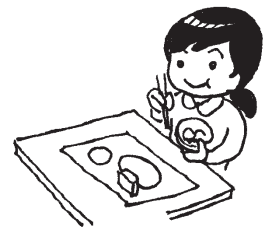
県内では柏市なども沼南町との合併の際には、センター校であった旧沼南町を自校給食校に切り替えました。また高崎市（群馬県）では、自校給食校としてすすめるにあたって「豊かな食事によって豊かな心、人格が形成される。人格形成のためならば教育費の増加は未来に対する効率的な投資」と当時の市長が発言するなど、費用対効果よりも子どもたちへ食育や安全を優先しています。

## 市民との約束を裏切って新設校をセンター給食に

八千代市でも以前は「新設校は自校給食校に」との考えから、萱田小学校、新木戸小学校の建設では自校給食校として進められました。しかし、その後の新設校である萱田南小学校、みどりが丘小学校はセンター方式とされました、今日では「自校給食校もセンター校へと切り替える」との方針に変えられています。

## あるべき学校給食の姿について12月議会で質問

市は「平成21年度の学校給食あり方検討委員会において、八千代市は新川をはさみ西と東に給食センターをつくり、自校給食校も老朽化とともにセンターに切り替える」との方針転換をはかったとの答弁でした。答弁では、方針があるだけで、なぜセンターなのか、なぜ新設校は自校給食という方針が覆ったのかは答弁されませんでした。



## センター方式から安全・安心の自校給食への転換を

学校給食会のあっせんのもと、食材の仕入れを行うにしても「自治体の努力によって地元産の食材を多く取り入れることは可能」なはずです。事実、お米は100%八千代市産のものを使っています。

学校給食会まかせにせず、子どもたちが食する「食材に責任を持つ」、さらには先の柏市や高崎市の事例でもあるように、調理に責任を持ち、子どもたちへ安心安全な食材を取り入れて自校で給食を作るということは「食材の作り手が見える（地元農家）給食の作り手が見える（調理員）」ことです。さらに自校給食校は現在市の直営で行っていますから、市が責任をもって食材を選び、調理員を雇用することになります。子どもたちが食する給食に市が責任を持つことが、より安全な給食を作ることに繋がります。